九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[060] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10207

出版情報：語文研究. 60, 1985-12-15. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

昭和六十年度第一学期講義題目（昭和60年4月〜9月）

国語学

特講	国語学要論	奥村教授	
演習	平曲	〃	
〃	国語学の諸問題	〃	
特研	倒叙国語史	〃	
特講	国語史の諸問題	迫野助教授	
演習	虎清狂言本	〃	
〃	国語史資料研究	〃	
特研	国語表記史の研究	〃	
講義	奈良時代の日本語	（福岡女子大学）	鶴教授
〃	近代文章史	（佐賀大学）	木坂教授

国文学

特講	板本書誌学	中野教授	
演習	本朝文鑑	〃	
〃	在津紀事	〃	
特研	近世文人伝	〃	
特講	物語文学史	今西助教授	
演習	伊勢物語	〃	
〃	狭衣物語	〃	
特研	平安朝文学の諸問題	〃	
特講	日本におけるフランス象徴主義	（教養部）	清水教授
演習	芥川作品研究	（教養部）	海老井助教授
臨講	近現代の文学	（名古屋大学）	助川教授

昭和六十年度第二学期講義題目（昭和60年10月〜3月）

国語学

特講	国語学要論	奥村教授	
演習	平曲	〃	
〃	国語学の諸問題	〃	
特研	倒叙国語史	〃	
特講	国語史の諸問題	迫野助教授	
演習	天正狂言本	〃	
〃	国語史資料研究	〃	
特研	国語表記史の研究	〃	
講義	奈良時代の日本語	（福岡女子大学）	鶴教授
〃	近代文章史	（佐賀大学）	木坂教授
臨講	国語史資料論	（岡山大学）	大友教授

国文学

特講	板本書誌学	中野教授	
演習	本朝文鑑	〃	
〃	田舎荘子	〃	
特研	近世文人伝	〃	
特講	物語文学史	今西助教授	
演習	蜻蛉日記	〃	
〃	狭衣物語	〃	

特研　平安朝文学の諸問題　今西　助教授
特講　日本におけるフランス象徴主義　（教養部）清水　教授
演習　近代文学作品研究　（教養部）海老井　助教授

▼昭和六十年度九州大学国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和60年6月9日（日）

研究発表題目

中村本『夜の寝覚』の研究　坂本信道
椋梨一雪『古今犬著聞集』をめぐって　田中葉子
高野蘭亭攷　高橋昌彦
続日本紀宣命における助詞表記　山下和弘
洞門抄物「報恩録」の国語学的研究　赤峯裕子
見島のアクセント研究　二階堂整
遠山景晋『未曽有記』について　板坂耀子
都の錦の西鶴受容　若木太一
連歌と俳諧と――能順のおかれた位相――　棚町知彌
『伊勢物語』五二段―五七段における言語性を考え　その編成意図に及ぶ　吉田達
膝栗毛の遠州方言「能か」と九州方言　秋山正次
「兵部の大輔」考――『源氏物語』末摘花の背景　今西祐一郎

▼第三十五回西日本国語国文学会

於宮崎大学　昭和59年9月21日（土）～22日（日）

研究発表題目

『おくのほそ道』の構想　白石悌三

＊

大坂本屋仲間雑攷　安永美恵
『和独対訳辞林』について　坂本浩一
『安々言』をめぐって　飯倉洋一
琉球方言の韻律論的性格　崎村弘文
近世東海道紀行の諸問題　板坂耀子
玉里文庫蔵『庄内陣記』の性格覚え書き　橋口晋作

（九州大学関係者のみ）

▼卒業論文構想発表会

於法文系二〇四番講義室　昭和60年11月9日（土）

▼国語学国文学公開講演会

於　文学部会議室　昭和60年12月12日（木）

平安朝日本漢詩文と和歌　福岡教育大学助教授　工藤直矩氏
国語史研究のための外国関係資料　岡山大学教授　大友信一氏

▼会員消息

森山　隆氏（昭和29年卒業・教養部教授）は、去る六十年十一月一日逝去されました。衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

▼お知らせ

先の学会報告でもお知らせ致しました通り、本誌誌代を今号より一部千円に値上げさせていただきます。諸経費高騰によるやむを得ない措置で御座いますので、宜しく御承認下さい。

昭和六十一年度九州大学国語国文学会
総会並びに研究発表会のお知らせ

日　時　昭和六十一年六月八日（日）午前九時三十分より

場　所　九州大学文学部

※研究発表御希望の方は、発表題目を明記の上、九州大学国語国文学会宛、昭和六十一年五月十日までにお申込み下さい。

執筆者紹介

今西祐一郎	九州大学文学部助教授
後藤昭雄	大阪大学教養部助教授
板坂耀子	福岡教育大学助教授
高橋昌彦	九州大学大学院（修士課程）
坂本浩一	九州大学大学院（修士課程）
横山正	大阪教育大学名誉教授
吉田達	
金原理	熊本大学文学部教授
園田豊	北九州大学文学部助手

《規　定》

一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に投稿を依頼することもある。

二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。

三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。

四、刊行は年二回（春・秋）を原則とする。

五、刊行会会費は現在年額 維持会員四千円（各号二部配布）、通常会員二千円（各号一部配布）とする。

六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。

七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。